平成２３年度アジア学術セミナー　実施報告書

平成 24 年 3 月 31 日

１　委託事業・セミナー名

（和文）JSPS-NRF アジア学術セミナー：精神神経疾患の神経科学研究における新しい展望

（英文）JSPS-NRF Asian Science Seminar : New Perspectives in the Neuroscience of Psychiatric and Neurological Disorders

２　セミナーの目的

最近、精神・神経疾患に対する統合的神経科学的研究は、欧米だけでなくアジア諸国でも大変活発になってきている。脳科学研究戦略推進を行い、精神･神経疾患の克服を目指す脳科学研究や健康脳研究の実施はアジア共通の研究テーマでもある。精神・神経疾患（発達障害、うつ病、認知症等）の発症のメカニズムを明らかにし、早期診断、治療、予防法の開発に資する研究を積極的に実施することは全世界的に国際社会が求めている。日本、中国、韓国を中心に多くの精神・神経疾患に関する先駆的業績が発表されており、世界的に高い評価を得られつつある。このような状況をさらに一層発展させるにはアジアにおける精神・神経疾患の若手研究者を密接な国際的協力に基づいて育成することは緊急の課題である。アジアの若手研究者間の情報交換を提供し、国際的視野に立った超一流の研究者に育成することを目指して本セミナーを企画している。

３　開催期間　　　平成 24 年 2 月 13 日 ～ 平成 24 年 2 月 17 日　　5 日間

４　開催地（会場）

Convention center, Hoam Faculty House, Seoul National University, Seoul, Korea

HP: http://www.hoam.ac.kr/english/

（ソウル国立大学内ホテルで、韓国 Incheon 空港から直行シャトルバスがある）

５　開催体制

（１）共催機関

日 本 側	独立行政法人日本学術振興会（JSPS）
	東北大学大学院医学系研究科
韓　国　側	韓国研究財団（NRF）
	Kyung Hee University

（２）　開催責任者

１）日本側　開催責任者所属機関・職・氏名　東北大学大学院医学系研究科・機能薬理学分野
教授　谷内　一彦

機関所在地・電話等　〒980-8575 仙台市青葉区星陵町２－１
TEL :022-717-8055
FAX :022-717-8060
Email: yanai@med,tohoku,ac,jp

連絡担当者所属機関・職・氏名　東北大学医学部・医学系研究科
総務室研究協力係長　佐藤　豪

機関所在地・電話等　〒980-8575 仙台市青葉区星陵町２－１
TEL:022-717-8007
FAX:022-717-7873
Email:med-kenkyo@bureau.tohoku.ac.jp

２）韓国側　開催責任者所属機関・職・氏名
Department of Oriental Pharmaceutical Science, College of Pharmacy, Kyung Hee University/Professor/ Jong Hoon Ryu, Ph.D.

機関所在地・電話等
1 Hoegi-dong, Dongdaemun-gu, Seoul 130-701, Republic of Korea
TEL 82-961-9230
FAX 82-966-3885
Email jhryu63@khu.ac.kr

６　運営体制・方法、組織委員会について

国際組織委員会（委員名簿）

Jong Hoon Ryu（委員長：韓国 Kyung Hee University）
谷内一彦（副委員長：東北大学）
曽良一郎（東北大学）
和田圭司（国立精神・神経医療研究センター）
Victor L. Villemagne（オーストラリア・メルボルン大学）
Zhong Chen（中国 Zhejiang University）
Jalal Izadi Mobarakeh（イラン Pasteur Institute of Iran）

７　日程及び議題（別添で可）及び関連行事の概要（レセプション、見学等）について

2 月 13 日（月曜日）：受付、オープニングセレモニー、特別講演、Welcome party
2 月 14 日（火曜日）：特別講演、講演（ADHD）、ポスター発表
2 月 15 日（水曜日）：講演（Depression, Ischemia, Schizophrenia, etc）、ポスター発表
2 月 16 日（木曜日）：講演（Alzheimer 病）、ポスター発表

2 月 17 日（金曜日）：講演（Parkinson 病）、終了セレモニー：ポスター賞発表、
キャンパスツアー（Seoul National University, Kyung Hee University）
添付プログラムを参照

８　参加者について
（１）参加者数

	講師数	受講者数	合計
日本側からの参加者数	17	20	37
（うち、本事業経費による参加者[注]）	(16)	(14)	(30)
韓国側からの参加者数	12	23	35
その他の国からの参加者数	6	3	9
（うち、本事業経費による参加者[注]）	(6)	(2)	(8)
合計	35	46	81
（うち、本事業経費による参加者[注]）	(22)	(16)	(38)

[注]オブザーバーとして参加する者は、本事業経費による参加者とはなりえません

（２）講師について
１）講師の選出方法
日本側代表者の谷内一彦を中心に日本側組織委員会で講師を選定して依頼した。日本人研究者は若手を含めて選定して、中国、オーストラリア、イラン、パキスタンからも選考した。また若干の若手研究者はポスター、薬理学会、神経科学会等を介して公募した。韓国側は代表者 Jong Hoon Ryu 教授を中心に組織委員会を通して活発に研究を行っている韓国を代表する著名研究者を選定した。

２）講師リスト
講師としての参加者・計 35 名
別紙参加者リストを参照

（３）受講者について
１）受講者の募集・選考方法
日本側代表者の谷内一彦を中心に日本側組織委員会で協議して受講者を選定した。受講者は日本人に限らず、中国、イラン、パキスタン等からも選考した。また受講者はポスター、薬理学会、神経科学会等を介して積極的に公募し、応募者の中から選考した。韓国側は代表者 Jong Hoon Ryu 教授を中心に組織委員会を通して受講者を公募して選考した。

２）受講者リスト
受講者としての参加者・計 46 名
別紙参加者リストを参照

９　本セミナーで得られた成果

（1）学術的な観点からの成果について

日本側招待講演者は日本、中国、イラン、パキスタン、オーストラリアを代表する神経科学研究者であり、基礎から臨床までの最先端の講義で、参加者を含めて活発な意見交換が行われた。また韓国側講演者も国を代表する世界的神経科学者であり、米国での研究活動を併行して行っている研究者もいた。最先端の韓国の著名研究者が講演したことで、参加した各国の講師・受講者を含めて講演後にも活発な意見交換が行われた。今回の講師・参加者は、アジア各国の大学関係者や企業関係者もおり、共同研究に関する打ち合わせ等も行われ、将来活発な国際的な学術交流に発展する可能性が芽生えた。どうしても欧米を主体とする学術交流に偏りがちになる日韓両国の研究者にとって、アジア学術セミナーの意義は極めて高くこれからも継続する必要性がある。

集合写真

（2）国際交流及び若手研究者育成の観点からの成果について

受講者と著名な神経科学者の間で、活発な討議と交流が夜遅くまで行われた。今回の受講者は博士課程大学院生と若手研究者が主体で、それ以外に企業関係者、修士学生、学部学生が含まれていたこともあり、日韓の若い研究者に大変強いインパクトを与えることができた。さらに今回は多数の受講者にポスター発表と討議を行わせたために、著名研究者と受講者の間で多くの議論が行われた。学会より時間的余裕があるセミナー形式であったために、十分な議論の時間が取れたことが若手研究者・大学院博士学生に大変よい影響を与えたと考えている。

ポスター発表風景

ソウル国立大学 Myung-Chul Lee 教授（前副学長）と参加者との懇談